

総合戦略



1 総合戦略の概要

(1) 基本的な考え方

① 戦略策定の目的

第7次榛東村総合計画は、村の将来像を“enjoy SHINTO”というキャッチフレーズに込め、住民の幸福度向上を最大の目的としています。第3期榛東村総合戦略は、人口減少・少子高齢化・働き手不足・地域コミュニティの変容など、村の持続性に関わる重要課題に対応する部分を担っています。

本戦略は、「地方創生2.0」の理念を踏まえ、

- ✦ 住民・事業者・多様な主体との共創
- ✦ 村の魅力の再評価と活用（自然・景観・農業）
- ✦ デジタル化や多文化共生への対応
- ✦ データに基づく行政運営（EBPM）

を軸に、榛東村らしい「ちよūdよい暮らしの価値」を最大化することを目的としています。

本戦略は第7次榛東村総合計画と一体的に策定し、人口減少対策を中心とした実効性ある行動計画として推進します。このため、総合戦略に位置づける施策は、総合計画とは別に新たな取組を並列的に示すものではなく、総合計画に位置づけた施策や事業の一部も含め、それらを戦略的に再整理・重点化したものとして構成しています。

② 計画期間

令和8年度～令和12年度（5年間）

③ 策定にあたっての留意点

1. 実効性の高い施策体系

前期計画の評価と課題を踏まえ、成果があった施策は深化し、課題が残る分野は新たなアプローチを導入。

2. デジタル社会・GX・多文化へ対応

村民サービスを改善するDX、災害に強いインフラ、多文化共生を重視。

3. 村民共創の地域経営

小規模町村の強みである「顔の見える関係性」を生かし、住民参加と協働を前提とした地域づくり。

④ 推進体制

- ・ 庁内横断「榛東村総合戦略推進本部」を設置
- ・ 外部有識者・関係団体・住民による推進会議を設置
- ・ EBPMに基づき、毎年の検証を実施
- ・ 村民参加による協働型の事業推進

2 榛東村の現状と課題

現状

- ・ 人口約14,000人、合計特殊出生率1.26で出生数は減少傾向
- ・ 転入は一定数あるが、若者流出と高齢化が進行
- ・ 農業・自然・景観などの資源価値は高い
- ・ 「ぶどう・自然・景観・暮らしやすさ」という魅力が強い
- ・ 保育・子育て支援は村の強み（待機児童ゼロ）

課題

- ・ 出生数の減少と子育て支援のさらなる強化
- ・ 住まいの確保（空き家・交通基盤）
- ・ 働き手不足と産業の担い手確保
- ・ 景観・農地の維持管理と観光の弱さ
- ・ 地域コミュニティの希薄化と担い手不足

3 施策体系

基本方針1

自然と景観を活かし、
地域で稼ぐ榛東

- 1-1 自然・景観×体験観光「しんとう五感みちプロジェクト」
- 1-2 農業担い手育成「しんとうアグリチャレンジ」
- 1-3 村産品の魅力創出「しんとうブランド戦略」

基本方針2

人がつながり、
住み続けたいくなる榛東

- 2-1 空き家再生と交流拠点「しんとう縁側プロジェクト」
- 2-2 関係人口創出「しんとうローカルワーク」
- 2-3 スマートしんとう構想「デジタル共創むらづくり」

基本方針3

子どもと家庭を真ん中に、
育ち合う榛東

- 3-1 結婚・出産支援「しんとう縁むすびサポート」
- 3-2 地域ぐるみの子育て支援「しんとう子育てネット」
- 3-3 教育・夢育成「しんとう子ども未来ラボ」

基本方針 1

自然と景観を活かし、地域で稼ぐ榛東

現状と課題

榛東村は、榛名山麓の豊かな自然環境や、村内に広がるぶどう畑、農地が作り出す美しい景観など、多くの地域資源に恵まれています。また、都市近郊に位置しながらも自然に近い生活ができる“ちょうどよい暮らし”の価値は高い魅力を有しています。

一方で、農業の担い手不足や高齢化の進行、農地や景観の維持管理の負担増、観光メニューの不足、地域ブランド力の弱さといった課題が存在します。加えて、若者や移住者が「榛東で働く」選択肢が十分に確立していないことも地域経済の持続性を弱める要因となっています。

こうした背景から、農業・観光・景観を連携させて「稼ぐ力」を高める取組を強化することが求められています。

対応方針

榛東村の持つ自然・農業・景観といった地域資源を再評価し、体験型観光、地域製品のブランド化、農業の担い手育成など、稼ぐ力につながる分野を総合的に伸ばしていきます。また、空き家活用など、新しい働き方・暮らし方と結びついた産業づくりを進め、住む・働く・訪れるが連動する地域経済を構築します。

これらの施策は、村内外の人材や事業者が関わり、地域の力で持続可能な経済を生み出すことを目的としています。

- ✦ 自然・景観 × 体験型観光の推進
- ✦ 農業の担い手確保
- ✦ 村製品のブランド力強化
- ✦ 空き家を活用した店舗・拠点整備
- ✦ 二拠点生活の誘致
- ✦ 移動手段の充実

KGI

地域観光・交流人口を年間20万人規模へ拡大

施策1 自然・景観×体験観光「しんとう五感みちプロジェクト」

基本的方向

榛名山麓の自然やぶどう園など、村が持つ景観資源を体験できる観光コンテンツを強化し、訪れる人と地域を結びつける「五感で楽しむ観光」を展開します。体験農園、自然散策、サイクリング等の周遊型観光を充実させ、SNSやデジタルツールを活用した情報発信を行うことで、体験型観光の受入と魅力発信を一体的に進めます。

- ぶどう収穫体験、自然ガイドツアー
- 景観 × フォト 周遊ルート
- SNS発信の強化

KPI

指標名	現状値（令和6年度）	目標値（令和12年度）
体験型観光参加者	—	5,000人／年

主な事業

- 榛東村ぶどう郷活性化支援
- 榛名山麓の自然をいかした観光促進
- 景観資源のデジタルマップ
- こけしの森づくり
- 広域観光（渋川市・吉岡町）との連携 等

施策2 農業担い手育成「しんとうアグリチャレンジ」

基本的方向

農業体験やインターンシップ等を通じて若者や外部人材が農業に触れる機会を増やし、就農への意欲を高めます。新規就農支援や研修制度を充実させることで担い手不足の課題に対応し、地域を支える産業として、農業を持続させる基盤を整備します。農福連携にも取り組み、農地管理と地域福祉双方の課題解決につなげます。

- 農業体験・研修受け入れ
- 就農支援の拡充
- 農福連携で農地管理を強化

KPI

指標名	現状値（令和6年度）	目標値（令和12年度）
新規就農者数 （令和6年度からの累計）	1人	7人

主な事業

- 農業インターン
- 新規就農支援制度
- 半農 × 半Xの推進 等



施策3 村産品の魅力創出「しんとうブランド戦略」

基本的方向

ぶどうをはじめとする特色ある村産品のブランド化を進め、付加価値を高めるとともに販路の拡大を図ります。加工品開発、パッケージ改善、EC販売強化、ふるさと納税返礼品の見直しなどを一体的に進め、地域内外に榛東ブランドを浸透させることで収入の柱を増やし、地域経済の循環を強めます。

- 特産品の磨き上げ（ぶどう、加工品）
- EC販路拡大
- ふるさと納税返礼品の強化

KPI

指標名	現状値（令和6年度）	目標値（令和12年度）
ふるさと納税寄付額	1.94億円（実績）	2.04億円

主な事業

- 返礼品の見直し
- パッケージ等改善支援
- ECマーケット出品
- ふるさと納税 等

基本方針2

人がつながり、住み続けたくなる榛東

現状と課題

榛東村では人口減少の進行や高齢化により、地域コミュニティの担い手不足や交流機会の減少が進んでいます。空き家の増加も地域課題として顕在化しており、子育て世代や移住希望者にとって「住まいの確保」が大きなハードルとなっています。

また、転入者と地域住民の交流機会が限られていることで、移住者が地域に根づきにくい状況もあります。こうした背景から、「住み続けたい」と思える環境づくりや、地域のつながりを再生することが急務となっています。

対応方針

空き家の利活用やお試し移住の取組を強化し、住まいに関するミスマッチの解消を図ります。あわせて、地域に開かれた交流拠点を整備し、移住者や若者、高齢者など多様な人々が交わる場を創出することで、コミュニティの再生につなげます。さらに、農業・観光・地域活動への参加機会を広げて「関係人口」を増やし、村内外のつながりを深めることで、移住・定住や地域活動への参画を促進します。加えて、DXを推進し、暮らしやすい地域づくりを進めます。

- ✦ 空き家の再生
- ✦ 短期滞在・旅住体験
- ✦ 多世代交流拠点の整備
- ✦ 関係人口の獲得
- ✦ ふるさと住民登録制度
- ✦ 公共交通の充実
- ✦ 行政DXの推進

KGI

20～39歳（若年層）の転入数600人／年

施策1 空き家再生と交流拠点「しんとう縁側プロジェクト」

基本的方向

空き家や既存施設の改修等により、訪れる人と地域がつながる交流拠点として活用し、地域の賑わいを創出します。また、民間主導の空き家再生を後押しし、地域の魅力を高めながら住まいの選択肢を広げます。

- 空き家や既存施設の改修で交流拠点等に再生
- 多世代交流の場の創出

KPI

指標名	現状値（令和6年度）	目標値（令和12年度）
空き家の再生数 （リフォーム補助金交付件数）	4件（実績）	10件

主な事業

- 空き家バンク強化
- 空き家改修補助
- 地域拠点（交流施設等）の整備 等

施策2 関係人口創出「しんとうローカルワーク」

基本的方向

農業体験や地域イベントなど、村に関わる入口となる多様なプログラムをつくり、地域外の人材が榛東村の活動に参加しやすい仕組みを整えます。また、村外の研究者や学生や各種団体などが活動できる仕組みを整えます。短期関与から長期的な地域参加、移住・起業につながる関係人口を育成することを目指します。

- 農業・観光・地域活動・教育活動に参加する関係人口を増やす

KPI

指標名	現状値（令和6年度）	目標値（令和12年度）
関係人口	—	30人

主な事業

- 地域活動プログラム
- 農業・観光体験
- 地域おこし協力隊
- ふるさと住民登録制度
- 村外の研究者、学生、団体の活動支援 等

施策3 スマートしんとう構想「デジタル共創むらづくり」

基本的方向

行政手続のオンライン化、デジタル講座の開催、ICT教育支援などを通じて、村全体のデジタル活用を促進します。行政と住民が共にデジタル社会へ適応できるよう支援し、利便性と効率性を高めた行政サービスを実現し、住み続けたい村を目指します。

- 行政手続のオンライン化
- 高齢者向けデジタル支援
- スマート農業の実装

KPI

指標名	現状値（令和6年度）	目標値（令和12年度）
デジタル講座の参加者数	187人	300人

主な事業

- 行政手続等のオンライン化
- スポーツ・文化施設の電子予約
- スマート農業の導入
- スマートフォン講座
- プログラミング教室 等



基本方針3

子どもと家庭を真ん中に、育ち合う榛東

現状と課題

榛東村では出生数が減少傾向にあり、子育て世帯の負担感、妊娠期から子育て期までの相談体制の強化が求められています。学校教育の充実やICT教育環境の整備、生涯学習や青少年育成などの取組も必要です。

また、子育て家庭の孤立を防ぎ、地域全体で子育てを支える体制を強化することが求められています。

対応方針

妊娠・出産から子育てまで切れ目のない支援を提供し、安心して子どもを産み育てられる村を目指します。相談窓口や子育て支援センター、子育てサロンなどを強化し、地域全体で子どもと家庭を支えるネットワークを構築します。

また、教育・文化・スポーツなど幅広い分野と連携し、子どもたちの夢や可能性を育てる環境を整備します。

- ✦ 妊娠～子育ての切れ目のない支援
- ✦ 子育て相談体制の強化
- ✦ ICT教育・キャリア教育充実
- ✦ 多様な居場所づくり

KGI

合計特殊出生率の改善（1.26 → 1.69へ）

施策1 結婚・出産支援「しんとう縁むすびサポート」

基本的方向

婚活イベントやセミナー、結婚や出産に関する相談支援を行い、若い世代の結婚・家庭形成を後押しします。妊婦健診助成や産前産後の支援を充実させ、妊娠期から安心して暮らせる環境を整えます。また、出産後の不安を軽減するため、子育て支援にかかる経済的な支援を図ります。

- 婚活支援イベント
- 結婚に関する講座
- 妊娠・出産の相談支援
- 出産後の経済支援

KPI

指標名	現状値（令和6年度）	目標値（令和12年度）
縁結び組数	3組	4組

主な事業

- 婚活サポート
- 妊婦等包括相談支援事業（妊婦健診等の助成）
- 保育料・給食費等の無償化 等

施策2 地域ぐるみの子育て支援「しんとう子育てネット」

基本的方向

子育て世帯を対象としたイベントや親子交流スペースを活用し、子育て家庭の交流と相談体制を強化します。地域住民・学校・行政が連携し、“子どもを真ん中に”地域全体で子育てを支える仕組みをつくります。

- 子育て教室の充実
- 子育て支援センターの利用促進
- 地域子育ての居場所づくり

KPI

指標名	現状値（令和6年度）	目標値（令和12年度）
子育て支援センター利用者数	4,705人	5,000人

主な事業

- 子育てサロン
- 親子交流スペース
- 相談体制強化
- 子育て支援センター
- ファミリーサポートセンター
- みんなのこども部屋運営
- 子育て支援施設整備 等



施策3 教育・夢育成「しんとう子ども未来ラボ」

基本的方向

ICT教育の推進、郷土学習、キャリア教育などを通じて、子どもが地域の魅力に触れながら夢や将来を描ける環境を整えます。学校教育の充実とともに、地域住民等の参画や職業体験など多様な学びの機会を提供し、子どもたちの成長を応援します。

- 学校教育の充実
- ICT教育の推進
- 地域キャリア教育
- 郷土教育の推進

KPI

指標名	現状値（令和6年度）	目標値（令和12年度）
放課後こども教室 ボランティア登録者数	21人	30人

主な事業

- 郷土学習
- ICT教育支援
- ICT教育
- 職場体験学習
- 放課後こども教室 等